

# 謹賀新年

会員の皆様、あけましておめでとうございます。2017年新たな年の始まりにあたり、一般社団法人建築物石綿含有建材調査者協会（ASA）よりご挨拶申し上げます。

昨年4月にASAが発足し、9か月が過ぎました。会員の皆様には協会活動へのご協力感謝いたします。

ASAの目的は、建築物石綿含有建材調査者（以下「調査者」）の活動を拓げること、そのために国・自治体・関連団体への調査者の認知度を上げる活動を行うこと、調査者自身の知識・技術力向上のための講習会等を開催すること、等です。

昨年の主な活動を以下に掲げます。

- ・ 4月 熊本地震対応（先遣隊派遣、熊本県・熊本市への被災建物調査・事後対応の支援）
- ・ 5月以降 毎月 メールマガジンの発行
- ・ 6月 第1回講習会（アスベスト除去工事への建築物含有建材調査者の関与について）
- ・ 10月以降 更新講習
- ・ 11月 メールマガジン号外（煙突用石綿断熱材の飛散事故に関する緊急解説）
- ・ 11月 イギリスの石綿管理・石綿調査者制度に関する調査団派遣（日本では石綿に関して調査者が唯一の公的資格ですが、海外では包括的な制度をもっているところもあり、その一環としての派遣）
- ・ 自治体からの講演依頼（千葉県、尼崎市、札幌市）

国内では、国の石綿対策の行政評価をまとめた総務省勧告が5月に発表されました。厚生労働省、環境省を中心に対策の強化に対応すべく、検討が始まっています。大気汚染防止法の建築物等の解体時石綿飛散防止対策、災害時の石綿飛散防止、レベル3石綿含有建材対策等が主な検討課題・勧告内容となっています。調査者に関連する事項が含まれますので、適宜メールマガジンでお知らせいたします。

メールマガジンでは、調査者に必要な情報として、石綿に関するニュース、石綿の飛散事故情報、石綿に関する技術情報、海外の石綿調査・石綿管理に関する制度等、スキルアップクイズを内容として送付しております。また更新講習において、会員の方々へ質問を受け付ける旨お伝えしたところ、かなりの数の質問がきております。これらの質問事項をふまえて、更に充実するよう心がける所存です（共通した内容なので個々に回答するより会員全体に周知するのがよい場合や、即回答できない場合もあることはご承知おきください）。会員向けの講習会は、アンケートの結果、要望の多かった実地研修と、レベル3建材関連、煙突断熱材関連を開催予定としています。

メールマガジンで一部お知らせしているように、解体時の石綿飛散事故、石綿含有建材劣化物の路上放置等、労働者・住民の石綿ばく露の可能性のある報道が絶えません。特に昨年は煙突解体時の石綿飛散事故は堺市や北海道で起こり、保育所近隣や学校内という点でも問題のある事故

が注目されました。これらは、初期の石綿調査がずさんであったということです。調査者の制度がもっと早くにあったら、と思わずにはおれません。2015年の中皮腫死亡者数は1500人、石綿肺がんを合わせると、交通死亡者数4000人（2016年）に匹敵する数といえます。石綿問題は最後の公害事案といえるでしょう。これに対応する石綿の専門家集団として、社会的使命を感じます。

石綿対策の第一歩は“調査者の活用”ということ、国・自治体の建築及び環境部局に認知してもらう活動も地道に進めています。建築物の石綿調査・除去工事の補助金交付事業では、調査者の活用が昨年1月に要件化されました。国交省営繕部の公共建築物改修工事標準仕様書には調査者の名称はありませんが、解説には今後、調査者の文言が導入される見込みです。環境省廃棄物リサイクル対策部は、熊本地震の際、被害建物の解体時の石綿調査は調査者を活用することを通達で発出しました。熊本地震以後、複数の自治体（福岡市、千葉県）から災害時の協定（建築物の石綿調査）に関する問い合わせがありました。少しずつASAの認知度も上がっていると期待しているところです。

現在、ASAの正会員は189名、賛助会員は8社です。調査者はそれぞれの所属機関で石綿に関して独自の技術をもっておられるかもしれません。それらの技術を出し合って、共通化することも大切です。調査者であれば、どこでも、だれでも、同等の技術を提供することが必要になるでしょう。皆様からの情報もお待ちしております。ASAの組織には、生涯教育・調査票委員会、調査者活用委員会、災害対応委員会、管理・除去委員会（準備会）があります。管理・除去委員会には、建築分野及び除去分野の方々を持たれている情報が必要になります。自治体からは、信頼できる石綿除去業の問い合わせがしばしば来ているので、今後、除去業をはじめ、賛助会員を拡大してゆくこともめざしたいと思います。「信頼できる調査者」という言葉は、一つ一つの業務で信頼されることが必要です。極めて難しい判定を含む石綿調査、除去工事において、十分注意していても、飛散事故が起こらないとも限りません。これは想定内です。ミスや事故が起こったときの対応も真摯であることが大事です。ASAが会員の皆様のつなぎ役（時には叱咤激励）になるよう心がけたいと思います。皆様もASAの活動にご協力よろしく願いいたします。

2016年、ASAは第1歩を踏み出しました。2017年は第2歩目です。

ASAにとってよき1年でありますよう、そして会員の皆さまにとっても素晴らしい1年になりますよう祈念して念頭の挨拶とさせていただきます。

代表理事 貴田晶子